

現地レポート

生活支援コーディネーター@AKITA

「今ある資源を、地域で使ってみる」

——“乗って守る”公共交通から考える、
外出支援のはじめの一步

お話を伺ったのは…

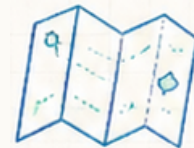
男鹿市社会福祉協議会
関谷さん

CHECK!

公共交通や市町村独自の移動手段
——皆さんは、実際に使ったことがありますか？
地域の方に紹介できますか？



今回は、男鹿市で今年度モデル的に進めている、公共交通に
実際に乗ってみる取組について、男鹿市社協の関谷さんにお聞
きしました。



ひと目でわかるまとめ

“取組ロードマップ”

取組	内容
住民座談会 ✓	市内全地区で、移動をテーマに住民の声を聞いた。
1層協議体 ✓	「まずは乗ってみればいいのか」という意見が出た。
モデル地区での実施 ✓	座談会で前向きな声があった地区でモデル的に実施するため 準備を進めている。
実施前の下準備 ✓	バス会社への乗車状況確認、関係課への事前相談を行う。
2層協議体 ✓	構成員や集落支援員に、実施の協力を相談。
チーム打合せ	関係者で具体的な内容を検討していく。
継続・展開	地域での継続に繋ぎ、他地区への展開も見据える。

◆きっかけは、全地区で行った住民座談会

男鹿市内には9つの地区があります。昨年度、全ての地区で「移動」をテーマにした住民座談会を実施したところ、どの地区でも、この問題は大きなテーマでした。

一方で、「移動に困っている」という声がある中でも、実際には公共交通を使ったことがない方も多くいました。市内を走る公共交通は、距離に関わらず1乗車200円で利用できますが、「乗ったことがない」「使い方が分からない」という声も聞かれました。

◆「まずは乗ってみる」から始める

こうした地域の声を、市地域包括支援センターが主催する「**1層協議体で共有**」したところ、「まずは、みんなでバスに乗ってみたいいいのでは」という意見が出ました。

移動手段が地域にあっても、使い方が分からなければ、暮らしの中では使いにくい資源のままです。そこで今年度は、座談会で前向きな声があった地区を中心に、**公共交通に実際に乗ってみる取組をモデル的に進める**ことになりました。

◆今ある仕組みを、安心して使うために

乗り換えなしで行けるスーパーを目的地とし、地域で集合してバスに乗り、買い物や昼食を楽しんで戻ってくる行程を想定しています。**手助けが必要になる前に、出かける機会**を持ち、**買い物や交流を楽しみながら自然に体を動かす**ことが、介護予防にもつながるのではないかと考えています。

実施にあたっては、**大勢で乗っても大丈夫かどうか**、バス会社に事前に連絡し、通常の乗車人数や座席の状況を確認しました。今ある公共交通を使う取組だからこそ、運行する側にも事前に確認し、安心して実施できるよう準備を進めています。

◆モデル的实施から、地域での継続へ

この取組には、2層協議体の構成員や、集落支援員の方にも協力いただく予定です。地域の実情や資源に詳しい方々に、**企画の段階から関わっていただく**ことで、より**地域に合った、継続しやすい形**を目指しています。

2層協議体では、「対象者を募って行くのですか」「普通のバスで行くのですか」といった質問のほか、「忙しいというのが本音ではあるが、やってみないと分からないものなあ。まず、やってみるか」といった前向きな声もいただきました。今後は対象地区の構成員や集落支援員と、具体的な内容を詰めていく予定です。

◆住民の「やってみようかな」を支える

モデル的实施を前向きに考えている地区の一つでは、全体の動きより一足早く、民生委員さんが「一度乗ってみよう」と自主的に計画してくれました。SCも同行し、**初回のお試しを後押し**するため、行事用保険の費用とバス代を社協で助成しました。

実際にやってみると、参加者からは「みんなで来るのもいいね」「子どもたちと来ると、必要なものを買って帰るだけで、ゆっくり見て回ることはない」といった声が聞かれました。まちの変化を知る機会にもなり、中心になった民生委員さんからは、今後も数か月に1回続けたいという声が聞かれています。



初回のお試しの様子。
皆さん買い物を
楽しみました！